

慈眼寺たより

第18号
平成27年7月
春日井市下市場町
「慈眼寺」
電話 81-6801
編集 伊藤秀文

★分教場で学んだ三年☆

今井 正

山間の小さな里で産声を上げた。物心が付いた頃、戦争の気配が日に日に膨らむのを、何となく感じていた。里には、明治中期に開校した寺子屋のよ

うな分教場があった。先生は一人である。小一、小二、小三の児童を、時間をずらして順番に教えていた。当時でも珍しい複式授業である。明治、大正、昭和の初期を通して、児童数は十二名前後だったと聞く。

一人三役を担う先生の名は『渡辺虎馬吉』である。虎と馬から村人は陰で『渡辺動物園』と、やゆしていた。でっかい体に、つるつる頭。眼光は鋭く動作は機敏、時には大きな声で雷を落とす怖い先生だった。

分教場の建物は、西半分が教室、東半分は、先生の家族四人の住まいだった。先生は、月に

二日は校務で本校へ出かけていた。先生の不在時には、奥さんが教壇に立っていた。いつも笑みを浮かべ、とても優しい人で人気があった。

小三の時、下級生を教えていた先生の目を盗んで、時々、漫画の本を読んでいた。そのうちに先生に見つかり大目玉を喰らった。『冒険だん吉』と『のらくろ』の二冊は没収された。後日、自宅を訪れた先生から本は父親に返された。父親からも追い討ちをかけるように、こっぴどく叱られた。

月の第一日は、先生に引率されて地元の神社へ参拝に出かけていた。『武運長久』の戦勝祈願である。しろむくの衣に袴をはいた先生は、にわか仕立ての神官さまに早変わり。児童を神殿前に整列させ、塩を撒きお祓いをした。直立不動の先生は、神殿に向かって祝詞を唱え始

めた。

「懸けまくも畏き諏訪神社の大前に、慎みて武運長久の・」と、終わった途端、おかしさを堪えきれず「クツクツクツ」と、声高に笑った。血相を変えて飛んできた先生が「おまえか、いま笑ったのは」と、往復びんたを見舞った。

厳寒の時期、授業後の教室や便所の掃除は、本当に嫌だった。バケツの水は冷たく、手には霜焼け、足には、あかぎれができ難儀した。凍傷は、ポカポカ陽気の春が来ないと治らなかつた。先生は、児童が何か悪いことをすると、直ぐに便所掃除の罰を科していた。

一番楽しかったのは、唱歌の時間だった。先生は小さなオルガンを弾きながら、大きな声で歌い始める。一小節遅れて、全員で大きな声で合唱した。唱歌の時間だけは、学年の境はなかった。小一の時に、小二、小三の唱歌も覚えてしまった。分教場での三年間、机を共にしてくれたのが久和君だ。彼は先生の次男で、頭も顔も自分よりかなり優れていた。放課後とか

休日には、彼と野や山や小川で奔放に遊んだ。いま思うと、陸の孤島での『二十四の瞳』に似た学びであった。渡辺先生には大石先生のような優しさは微塵もなかった。先生の、律儀にして無類に厳格な言動は、その後の自分の人生に大きくプラスしたと思っている。先生には深く感謝している。

《青柳歌壇・俳壇》

●御獄の噴煙見えしという橋にあの日の空の青さを思う (た)

●庭先の紅白の梅咲き競う心も和む春の訪れ

●行きたいと憧憬していた出羽三山漸くにして参詣済ます

今井 正

●田植終えバス借り切って宮参り (秀)

●剪定の夫が小枝を散らしたる

●庭畑の抜き菜で作る菜飯かな

伊藤貴美子

●鯨折を開くや母の小さき膝

●預かりし赤子の寢息月涼し

矢野孝子

☆老人施設に入ること★

四月の終わりに、九十五歳の母を特別養護老人ホームというところに入れました。

昨年暮れまでは、わりに元気で、その辺の草取りなどもしてくれていたのですが、それこそ突然に、「もう歩けない、痛い痛い、ゲーサービスも行けないう」と言い出して大騒ぎになりました。そんなに痛がるのは骨折しているのではと、整形外科などに連れて行ったのですが、「骨はなんともありません。骨粗鬆症のおそれがあります」ということで、一応、注射に通う約束だけはしてきましたが、どうも違うような気がする。ほとんど声も出なくなってしまうて、これではもうおしまいかと・・。正月に葬式も困るなど思いつつどうしようもない。結局、原因もなにも分からないまま十二月末に病院へ入りました。最初の病院には、ほぼひと月おりました。この間ほとんど喋りもしませんでした。有り難いことに、トイレだけはちゃんと意思表示をしてくれましたので、おむつには一度もお世

話になっておりません。この病院では、ひと月寝たつきりだったので、どうも老人性のウツではないかということ、そちらの薬を頂くようになって、少しづつ改善の兆候が見られ、声も出るようになりました。

一月末に転院し、少しリハビリも始めようかということになりました。ひと月くらい経つと、手を引いてもらって、その階をぐるつと一回り歩けるようになってきました。この頃になると、看護師さんに紙をもらって、いろんなことを書くようになってきました。昔の思い出とか、親戚の誰かのこととか、いろんなことが書いて壁に貼ってありました。これもやはりリハビリだったんでしよう。そして暖かくなった四月、申し込んでおいた特養から入所の許可が出ましたので、そちらに移りました。当初は百人待ちということでしたが、ゲーサービスに通っていた人は優先だということ、入れてもらえたようです。実はこのゲーサービスも、本当は近所の皆さんと同じところを希望していたので

すが、そちらは満員とかで入れず、こちらに決めたところでした。何が幸いになるのか・・。入ってみると、色々不満があるようです。まずは入居者どうしの会話がないう。皆さんボーンとテレビの前で座っているだけ。見ているのかどうかもよく分からない。会話がないうは、お互いに耳が遠く、相手の発言が伝わってこないからです。ということ、会話はまず成り立ちません。ほとんど車椅子に座ったきりで、テーブルに突っ伏している方もみえます。一体こんな状態が何年続くのだろうか。人と人ごとながら、心配になってきます。介護士の方とても優しくしてくれませんが、それがどれだけ伝わっているのやら。夜はトイレに何度となく起きるようなのですが、あまりに頻度が多く、担当の人に鬱陶しがられたり、色々ストレスはたまるようです。

先日、施設のボランティアの日があり、勤労奉仕しました。そこで一緒に作業した人が、「私は体を壊して、今はほとんど寝たつきりなんだが、ここに

オフクロが世話になっているので、この日だけはどうしても参加させてもらっています」と言っていました。生きるということは辛いことです。

お盆のお知らせ

① 棚経の日取り

八月十日 熊野、神領方面
八発十一日 穴橋（県道東）堀北

八月十二日 浅山、鳥居松
勝川、名古屋

八月十三日 四谷、南部
八月十四日 下市場

八月十五日 穴橋、篠木、関田
上条、高蔵寺、坂下

右は原則です。

② お施餓鬼

お施餓鬼は毎年八月十八日です。今年火曜日です。

七月一日から受付をしております。早い時間帯は予約済みになっております。ご希望の方はなるべくお早めにお申し込みください。電話で結構です。お布施は今までどおりで

初盆施餓鬼 五万円

特別大施餓鬼 三万円

大施餓鬼 二万円

合同施餓鬼 一万円

★説法(修証義) ☆

住職 春日井浩道

先回までに修証義第四章、布施と愛語について書きました。布施というのは、自分の力を人

にほどこすことでした。愛語と

いうのは優しい言葉をかける

ことでした。

あと二つ、利行と同事という

徳目が出てきます。利行という

のは、広い意味の布施とあまり

変わらないかもしれませんが、

他の者に有益な行為をするこ

とです。修証義では、亀や雀な

どもその対象にしていますか

ら、おそらくすべての生き物が

対象になるのでしょうか。他の生

き物(当然人間が一番です)に

ついて、有形無形の利益を与え

てやりましょうということでは

す。そして、利行の結果は、巡

り巡って行為者本人の利益に

なるのだといっています。典型

的なのは浦島太郎が亀を助け

たお話でしょう。なにしろ誰も

行ったことのない童宮城に行

けて、楽しい思いをすることが

できましたから。しかし、他の

生き物についてはあまり深く

考えない方がいいようです。毒

蛇や毛虫などはどうするかと

いうことになりますと、難しい

ところでは、やはり人間以外の

生き物については、お互いの生

活の邪魔をしない程度に付き

合いが妥当ではないでしょうか。

もつとも、動物は他の生き

物を食べなければ生きていけ

ない宿命がありますから。

いま、アメリカでは刑務所も

民営化され、受刑者は、食費や

クリーニング代など必要経費

を支払わされ、時給二十円ほど

で働かされるのだという。こう

いうシステムなので、受刑者を

たくさん作るのが産業界の要

請だそうです。現代の奴隷制度

のようなものです。自分たちの

利益のために人を食い物にし

てしまう、これがまさに利行の

逆の姿なんではないでしょうか。

同事というのは、人と合一に

なるということでは、餌を拾っ

て食べる猿ならば、単独で生き

ることは可能でしょうが、大き

な社会を作ってしまった人間

では、文字どおり一人で生きる

ことはできません。同じ立場に

立って心を合わせ、力を合わせ

てこそ、物事は成就するので

す。

それには人との和が大切です。

俺の方がエライとか、あいつの

方がエラくないとかという態

度では人の集団は、うまくいか

ないでしょう。とは言っても、

もともと別の皮膚に包まれた

別の生き物同士です。お互いに

生存のための利益を求めると

エゴな存在なのです。美味しいも

のがあれば、自分だけたくさん

食べたいし、海の中で板きれ一

枚しかなければ、自分だけがつ

かまりたいのです。そうである

からこそ、できるだけ自分のエ

ゴを抑えて、協同することが徳

目とされるのです。具体的には

町内会、協同組合、会社、など

皆そうです。個人を越えた集団

の力が何時までも伝わってい

くことになりまします。修証義にも

「自他は時に従って無窮なり」

と言っています。悪いことに力

を合わせてはなりません。

こうして、四つの徳目を肝に

銘じて実践していくことが、仏

教徒としての基本になるので

す。とりあえずこうした形から

守って行くことが大切だと言

っています。次回は第二章懺悔

滅罪へいきます。

精霊流し

八月十五日 午後四時半から
慈眼寺山門のところで行います
明るいうちにお持ちください。

☆世相雑感★

○最近、総理大臣がおかしい。
日本の存立を危うくするよう

な事態であれば、他国を守るた

めの軍事行動も、憲法の認める

自衛権の範囲に入るといふ。こ

れには必要最小限度とか、他の

手段がないとか、色んな条件が

あるようだが、今までの議論を

見ていると、そんな条件は政権

党が好きないように判断できる

ように思われる。

面白いのは、自民党が推薦し

た参考人からこの法律の違憲

の指摘があつたのに、平然と無

視していることだ。何百人もい

る自民党の国会議員も何も言

わない。その昔、美濃部達吉と

いう先生の天皇機関説という

のを、よってたかつて糾弾し、

世の中がおかしくなつてしま

った。数さえ揃えば正義だと思

っているのだからか。賞味期

限の過ぎたと思われる。自民党

の長老方からいい 加減にして おけという指摘があった。それ だけが救いだ。現役の議員さん たちは、そんなに大臣の椅子が 欲しいのか。無能なのかゴマす りなのか情ない限りである。そ れぞれが 国民のリーダーだと いう自覚を持って欲しい（自民 党に一人だけ反対がいました）。

靖国神社にしてもそうだが、 結局この国は戦争責任 につい て何一つ考えていなかったの ではないか。無茶な経営をして 会社を倒産させれば、中小企業 なら、社長は首を吊るでしょう 。 大会社でも背任という罪を被 ることになる。しかし、三百万 人以上の死者を出し、国土を無 茶苦茶にした戦争、それも最初 から負けるとわかっていたバ

カな戦争を始めた者の責任が、 国民の手によって問われず、逆 に一億総懺悔 という言葉でご まかされてしまっている。

そしてまた、同じようなこと の繰り返しである。この国では お上というものは、それほどマチ ガイをしないものでしょうか。 ○沖縄が基地問題 で揺れている。反基地を公約にして当選し

た知事さんなので、当然といえ ば当然である。しかしあまりに 沖縄はかわいそうではないか。 思うに極端な不平等条約 であ る安保条約と日米地位協定、こ れが間違いの元ではないのか。 自分の国は自分で守ったらい いのです。人に守ってもらおう とするのでこういうことにな

る。憲法を改正して国防軍を持 つ。安保条約を破棄する。とり あえず 米軍には出て行っても らう。その上で、必要ならアメ リカと 軍事同盟 なりなんなり 結べばいい。そうでもしない限 り何時までもアメリカべった りのおかしな状態が続く。一度 振り出しに戻るべきではない か。

暑中お見舞い 申し上げます

檀方総代	伊藤辰男
マ	伊藤久幸
マ	伊藤秀文
マ	伊藤正廣
マ	大野和義
マ	大野悟
マ	木村廣孝
住職	春日井浩道

○東北の大地震以来、火山の動 きが活発になっています。小笠

原の西ノ島や、御獄、箱根山、 口永楽部などなど。挙句は富士 山までも取り沙汰されています。 現に富士山は一七〇七年の 宝永地震の直後にも、八六九年 の貞観地震の直前にも大噴火 をしています。宝永の噴火の時 には、江戸の町でも数センチの 灰が積もったといえます。

太平洋の岩盤から受ける圧力 が限界を超えれば、地震になり マグマが押し出されて噴火す るのは当然のことなんです。予 想される大噴火に、大都 市の機能が生き残れるのか、新 幹線など、現代的な構造物がど うなるか、空想の世界ではなく 差し迫った危険のような 気が します。本当は、安保論議より もこちらの方が、国民の生命を 守る意味からも 重要ではない でしょうか。

○最近、「墓じまい」という言 葉が聞かれるようになりまし た。誰もお墓の面倒を見てくれ る人がいなくなつて、もう自分 の代でお墓を処分してしまう ことです。こういう傾向がある ことはうすうす 気がついてい ましたが、テレビなどで取り上

げられるようになって、言葉も 定着してきたようです。 考えてみれば、昔のように田 圃とお墓と仏壇がセットで 相 続される時代ではなくなった ようです。親が名古屋でサラリ ーマンをしていても、一人息子 は名古屋にいたとは 限りませ ん。まして、嫁さんが当地の人 でもなければ、親のお墓のため に定年過ぎて帰ってくるこ と など考えられません。かくして それでは私の動けるうちにお 墓もお骨も処分しましょうと いうことになります。お墓も仏 壇も一代限りと考えたほうが 分かりやすいかもしれませ

ん。 ★編集後記☆ 世の中ますます 生きづらく なっているようです。老人には 生き甲斐がなく、若者には仕事 があります。そんな中、総理 大臣だけお元氣のようです。 暑くなりますので、気をつけて お過ごしください。

「慈眼寺たより」 第十八号 平成二十七年七月十日 発行 ホームページ ← ← http://www.ma.cnw.ne.jp/jige_nji/